

モデム共有デバイスを使用した STUN の設定

目次

[はじめに](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[表記法](#)

[設定](#)

[ネットワーク図](#)

[設定](#)

[確認](#)

[トラブルシューティング](#)

[関連情報](#)

[はじめに](#)

このドキュメントでは、モデム共有デバイス (MSD) とシリアル トンネル (STUN) を設定する設定例を紹介します。

[前提条件](#)

[要件](#)

このドキュメントに関しては個別の要件はありません。

[使用するコンポーネント](#)

このドキュメントは、特定のソフトウェアやハードウェアのバージョンに限定されるものではありません。

[表記法](#)

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコ テクニカル ティップスの表記法](#)』を参照してください。

[設定](#)

この項では、このドキュメントで説明する機能の設定に必要な情報を提供します。

注: このドキュメントで使用されているコマンドの詳細を調べるには、[Command Lookup Tool](#) ([登録ユーザ専用](#)) を使用してください。

[ネットワーク図](#)

このドキュメントでは、次のネットワーク構成を使用しています。

[設定](#)

このドキュメントでは、次の設定を使用します。

- [ルータ A](#)
- [ルータ B](#)

ルータ A
<pre>stun peer-name 1.0.0.1 stun protocol-group 9 sdlc interface serial 0 encapsulation stun stun group 9 stun route address c1 tcp 5.0.0.1 local-ack stun route address c2 tcp 5.0.0.1 local-ack stun sdlc-role secondary sdlc address c1 sdlc address c2 interface loopback 0 ip address 1.0.0.1 255.255.255.0</pre>
ルータ B
<pre>stun peer-name 5.0.0.1 stun protocol-group 9 sdlc interface serial 0 encapsulation stun stun group 9 stun route address c1 tcp 1.0.0.1 local-ack stun route address c2 tcp 1.0.0.1 local-ack stun sdlc-role primary sdlc address c1 sdlc address c2 interface loopback 0 ip address 5.0.0.1 255.255.255.0</pre>

注: ルータが DCEデバイスとして動作する場合 MSD に接続するルータが半二重を使用するデータ端末レディ (DTR) 最高をストラッピングする必要があります。また、IP ルーティングおよび WAN設定は、簡単にするために現われません。詳細については、[Serial Tunneling \(STUN \) の設定し、トラブルシューティング](#)資料を参照して下さい。

[確認](#)

現在、この設定に使用できる確認手順はありません。

[トラブルシューティング](#)

現在のところ、この設定に関する特定のトラブルシューティング情報はありません。

関連情報

- [STUN/BSTUN サポート](#)
- [テクニカルサポート - Cisco Systems](#)